鈴木　はい。あらためまして、退院おめでとうございます。

芦刈　はい。ありがとうございます。

鈴木　どうですか。今、もう、えっと、10 日ぐらいたってますけれども。

芦刈　ああ、やっと、こう、何となく生活を、リズムがつかめた感じで。ちょっと、昨日、一昨日、ちょっと体調不良になったんですけど。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　うん。いや、ちょっと、た、きょう、炭酸とか、結構、ビールとか飲んだんで、おなかにガスがたまったみたいです。

鈴木　フフフ。ビールを飲まれたんですか。

芦刈　ビール好きなんで、まあ、そうなんですけど、で、まあ、1 日、風呂日だったんですけども、入らんで、で、車いす乗らないので安心してたら、次の日、昨日は車いす乗れたので、まあ、失敗もいい勉強かなと思ってます。

鈴木　病院にいらっしゃるときって、ビールって飲まれてたんでしたっけ？

芦刈　いやいや、病院はアルコールは飲まれないんで。

鈴木　アハハハ。ハハハハハハ。ということは、え、なん、何日、何年ぶりに飲んだって感じですか。

芦刈　1 年と半年以上かな。以上ですかね。うん。

鈴木　そうですか。お味はどうでしたか。

芦刈　それは最高でしたよ。

鈴木　フフフフフ。

芦刈　初日に飲んだんですけど。

鈴木　はい？　なんですか。

芦刈　退院初日に飲んだんですけど。

鈴木　あ、退院初日に飲まれたんですね。

芦刈　そう。まあ、それが楽しみで退院したのもあるんで、それとビールと刺し身を食べました。

鈴木　へえ。へへへ、へへへへへ。じゃあ、もうだいぶ、なんか違いますよね。それって。

芦刈　そうですね。うん。今、本当、自分の、まあ、自由がいいかを。まあ、でも、一生懸命まだヘルパーさんにちょっと慣れてもらうのが先なんで、まあ、取りあえず、一通り皆さん、ヘルパーさん入ってくれたんで、少しずつ慣れてきてる感じです。

鈴木　あのー、退院の日って 8 月の 17 日ですよね。

芦刈　はい。

鈴木　その日はあれですよね。雨降ってらっしゃいましたけど大丈夫でしたか。

芦刈　ああ、そうですね。雨でしたね。まあ、あのー、病院の屋根がある所で、で、こっちも、あのー、屋根、屋根がある所まで車つけて、車乗ったんで、まあ、何とか大丈夫でした。

鈴木　あのー、午前中にあれですか。もう出られたんですか。

芦刈　そうです。11 時ぐらいに病院出て、まあ、昼からいろいろ訪問看護の人とか、呼吸器業者来ていろいろセッティングしてっていう感じだったんで、結構、忙しかったんですけど。

鈴木　あのー、その、病院を出られるときって、あのー、見送られた方ってどなたが見送られたんですか。

芦刈　職員ですね。その日に勤務してた職員が、まあ、何人か出て来て見送ってくれた感じです。

鈴木　職員というのは看護師の方ですか。

芦刈　あ、看護師とか、あのー、介助員とか。はい。

鈴木　主治医の方はいらっしゃいましたか。

芦刈　もちろん、いました。一緒に写真撮ったりして。

鈴木　あのー。この間。

芦刈　受け持ちなんですけど。うん。

鈴木　受け持ちなんですね。はあはあはあ。あのー、筋ジスプロジェクトの、あのー、前回の会でお写真が、ハハハ、あのー、フフフ、見させてもらいましたけど、そのとき何人か下に写ってらっしゃったんですけど、その皆さんですよね。

芦刈　そうですね。うん。

鈴木　じゃあ、えっと、まあ、あとは、えっと、えっと、えー、オシキリさんがいらっしゃったってことですかね。

芦刈　はい。はい。オシキリ君は隣の部屋です。

鈴木　ああ。本当ですか。

芦刈　うん。だから、ちょこちょこ様子見に来てくれるんで。

鈴木　それは面白いことになりましたね。へえ。

芦刈　うん。その、犬飼ってるんで、よく鳴き声が聞こえて。オシキリ君の所から。

鈴木　それは大丈夫ですか。犬は。

芦刈　ああ。全然大丈夫です。うん。

鈴木　あの一、病院出られるときって、皆さんどんなふうに声掛けられてました？

芦刈　まあ、(＃＃＃＃@00:04:56)って、まあ、気を付けてねみたいな感じですかね。うん。

鈴木　主治医の方。ああ。

芦刈　うん。主治医の先生は、体重増えるの気を付けろって5、6回言われました。好きなもの食べるだろうから体重が増加するだろう。ただ、家でも太らずと思って、基本、あの一、野菜とか、トマトとか毎日食べてて、今のほうが健康的かもしれません。

鈴木　ハハハハ。フフフ。なるほど。フフフフ。あと、後輩の方っていらっしゃいました？そのとき、見送られるときに。

芦刈　あ、いましたよ。あの一、いつも、あの一、僕が車いす乗ると一緒に後ろついてきてくれる人。うん。後輩がいるんですけど、ずっと離れなくて、うん、で、なんか、うん、寂しそうだったんで、うん、それはちょっと、うん、後ろ髪引かれる感じになりましたけど。

鈴木　なんか言ってました？　後輩の方は。

芦刈　あの一、(＃＃＃＃@00:06:09)だから、(＃＃＃＃@00:06:11)、特に、そう、何か言ったわけじゃないけれど、また行くねっつったら、うんって言ってたんで。うん。

鈴木　何ておっしゃってた？

芦刈　また会いに来るねっつったら、うんって言ってたんで。

鈴木　でも、それは寂しいんじゃないですかね、相当。

芦刈　思いますよ。今、車いす乗ってうろうろする人って、病棟、あまりいないので、うん。ちょっと今頃どうしてるかなと思いながら、たまにLINEしたりして、うん。まあ、連絡は取ってます。はい。

鈴木　学校の先生とかはいらっしゃったんですか、そこに。

芦刈　いやいや。いないです。

鈴木　それはもうだいぶ時間がたっちゃってるから、そんなに付き合いはないってことなんですかね。

芦刈　まあ、コロナだから入ってこれないと思うんで。うん。今は支援学校にも知ってる先生は、そんなにいないので。はい。

鈴木　あのー、じゃあ、芦刈さんとしては、まあ、何ていうんですかね。いろんな人が見送ってくれたかなっていう、そんな印象があるんですかね、出られるとき。

芦刈　そう、そうですね。うん。

鈴木　どんな思いでした？　その病院を出るときって。

芦刈　うん。一応、まあ、お世話になりましたってあいさつをして、まあ、目がうるうるしましたね。34 年いたんで、まあ、いろいろな思い出が基本あるので、まあ、うれしい気持ちもありつつ、寂しい気持ちもあったんですけど。もう、でも、楽しいほうが基本強かったんじゃないかなと思います。

鈴木　あのー、その病院から新居に行くまでって、あのー、車かなんかで行かれたんですか。

芦刈　はい。リフトで。リフト付きの車で。

鈴木　それはセンター大分のですかね。

芦刈　そうです。うん。

鈴木　どのくらい時間かかるんですか。

芦刈　いや、車で 5 分ぐらいじゃないですか。

鈴木　あ、じゃあ、距離。

芦刈　すぐ下、下なんで。

鈴木　すごい近いんですね。

芦刈　近いですよ。

鈴木　ああ。それはあれなんですかね。マンション建てるときって、それを考えてたんですかね。

芦刈　いや、どうなんですかね。一応、ほら、あのー、前あった所が、結構、海抜、結構、低いんで、津波とか来たときにかぶらない所で、ちょっと上に建てたんじゃないですかね。

鈴木　ああ。

芦刈　別に(＃＃＃＃@00:08:58)が近いとか、そういうのは、多分、なかったと思うので。

鈴木　うん。たまたまですか。

芦刈　たまたま。たまたまそこなんだと思うんですよ。(＃＃＃＃@00:09:07)でも、ここちょっと、いろんな店とかあって、結構、家賃とかも高い場所なんで、別府では、結構、いい土地じゃないかなと思います。

鈴木　ということは、あれですか。市街地というか、いろいろ店がある所なんですか。

芦刈　周り、そうです。あのー、シャトレーゼがあるんです。

鈴木　シャトレール？

芦刈　シャトレーゼっていうケーキ屋さん。

鈴木　ああ。

芦刈　うん。(＃＃＃＃@00:09:33)すぐ上にあって、セブンも近くにあるし、隣にお弁当屋さんもあるし、ちょっと足伸ばしたら、ダイレックスとかいろいろ。(＃＃＃＃@00:09:46)とか業務スーパーとかあるんで、結構、まあ、立地的にはいいかなと。

鈴木　坂はどうなんですか。その辺りは。

芦刈　まあ、下る坂はありますけど、まあ、あのー、横移動で、結構、店とかあるんで、うん。まあ、ちょっと業務スーパーとかは10号線まで出ないと行けないですけど。まだ自分

で買い物行けないんで、今、コロナなんで。

鈴木　ああ。

芦刈　まあ、落ち着いたら自分でも買い物行こうかなと。

鈴木　あ、自分でもってことは、じゃあ、どなたかが代わりに行ってくれてるってことなんですね。

芦刈　まあ、ヘルパーさん行ってもらったり、彼女に行ってもらったり、そんな感じで。

鈴木　あのー、親御さんはどうですか。ご両親はお話しされましたか。

芦刈　いや、あれから、もう、父が 8 回、7 回ぐらい来て、きょうも来ました。きょうは、あのー、兄、兄も来て、めいっ子さんも来てくれて。この前、一回、ちらっと来たんですけど、ちょうど訪問診療をしてたので話せなかったんですけど、きょうは、ちょっと話せたんで。父は毎回来てます。毎日のように。

鈴木　退院した日もっていうことですか。

芦刈　はい。退院した日も両親来ました。きょう、部屋まで来ました。はい。

鈴木　なんか、何ておっしゃってましたか。

芦刈　いや、もう、あのー、時間帯とかないんで、まあ、初めて部屋見て、母はまだ 1 回しか来てないんですけど、うん。逆に、なんか父とかも会えるのがうれしそうです。うん。

鈴木　やっぱり、まあ、退院おめでとうっていう言葉をかけられたんですかね。

芦刈　いや、おめでとうとは言わなかった。そういう言葉はなかった。

鈴木　まあ、自然な感じでお話しされたと？

芦刈　うん。あんまり、おめでとうって思ってないと思う、内心は。

鈴木　フフフ。で、これまで、でも、連絡なかったわけですよね。

芦刈　あ、まあ、あのー、メールの連絡とかはしてたんですけど、電話してもなかなか出ないんで。

鈴木　お会いしたのは何日ぶりだったんですか、ご両親と。

芦刈　母と会ったのはすごい久しぶりです。父は、あのー、たまに洗濯物持ってくるときに、ちらっと見たりはしてたんで、母に会ったのいつぶりだろう。半年以上になるかな。

鈴木　そんなにですか。

芦刈　うん。で、いろいろ、あのー、弁当とか持ってきてくれて、手伝ってくれたりした。食べてもらったりとかして。

鈴木　でも、お父さまは、まあ、直前まで、まあ、基本的に洗濯物を取りに来られてたんですもんね。

芦刈　そうですね。うん。なんか洗濯が生きがいなんでね。俺にさせてくれとか言われたんですけど、いやいや、一応、自立やけん、自分でせんといけんけん、それは断ったんですけど、でも、ちょこちょこ来て、ちょっとしたものは持って帰って、また洗って持ってきて。うん。

鈴木　ご両親が住まわれている所ってどのぐらい距離、離れてるんですか。

芦刈　あ、まあ、西別府に来るのと変わらないぐらいなんで、高速で来たら 50 分ぐらいで、普通に来たら 1 時間 10 分ぐらいかかる。

鈴木　あ、でも、結構、かかりますね。

芦刈　うん。結構、かかります。

鈴木　それ毎日来られてるって、お仕事大丈夫なんですか、お父さま。

芦刈　あ、働いてないです。定年して。もう 78 なんで。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　もう 60 で定年して、ずっと家にいる。今、主夫してます。

鈴木　じゃあ、これからしばらく来られるっていうことなんですね。じゃあ、また。

芦刈　ああ、まあ、ほとんど来れる日は来ると思います。

鈴木　それはやっぱり、会うのが、やっぱり楽しみにしてられるからなんですかね。あるいは、ご心配なのか。

芦刈　いや、どうなんですかね。なんか楽しそうですよ。うん。

鈴木　フフフフフフ。フフフフフ。それは、病院ではあり得なかったことですよね。でもね。コロナでなかなか会えなくて。

芦刈　会えなかったんで、めいっ子たちにも久しぶりに会えた。

鈴木　ああ。芦刈さん、お兄さまお一人だけですか。

芦刈　そうです。

鈴木　で、お兄さまも、あのー、大分県に住まれてるんですか。

芦刈　はい。住んでますよ。大分市内。

鈴木　あ、大分市内。じゃあ、そんなに遠くはない？

芦刈　あ、あのー、うちの家よりは近い所に。

鈴木　ああ、そうですか。で、お兄さまも退院の初日かなんかに来られたっていうことですか。

芦刈　いや、兄は来てないです。この前、一回、来たとき、木曜かな。来たのは、ちらっと来たのが初めて。

鈴木　なんかおっしゃってました？　あのー、お兄さまも。

芦刈　いや、特には。

鈴木　あ、そうですか。フフフフフ。まあ、元気にやってるかみたいな感じなんですね。

芦刈　そうですね。うん。

鈴木　フフフフ。あのー、ご友人のかたがたとかもあれですか、来られたりするんですか。

芦刈　そうですね。この前、日曜日は友達いっぱい来て、うん、そんなにいっぱいいっても大人数じゃないんですけど、うん、ちょっと知り合いの元ナースとか、あのー、友達１人、あのー、ヘルパーが入ってるんで、その人と、まあ、一緒にご飯食べたりして、で、もう一人、友達来てくれて、まあ、いろいろ足りないものとか買いに行ってもらったりとかしました。

鈴木　え、お友達がお一人ヘルパーをされてるんですか。

芦刈　そうです。あのー、小学校からの同級生。

鈴木　へえ。

芦刈　幼なじみなんです。ちょっと日曜しか入れないですけど、そのときにまとめて料理作ってもらって。

鈴木　ああ。え、その方って、あのー、本に書かれていた方でしたっけ？

芦刈　あ、よう出てきます。あの同級生のところで。

鈴木　ん？

芦刈　同級生のくだりのところで。

鈴木　ああ、そうですよね。

芦刈　うん。

鈴木　へえ、そうですか。

芦刈　はい。

鈴木　あのー、最初の 1 日目ってどんな感じだったんですか。今、先ほど、ビール飲んだり、刺し身食べたりっておっしゃってましたけど。

芦刈　うん。まあ、その、ちょっと早めに 3 時に上がって、それから、あのー、そのときはヘルパー誰やったかな。まあ、慣れた人なんで、うん、ずっと、あのー、彼女が、ずっといてくれて、呼吸器とか全部できるので、で、何かあったらいけんけん、まだずっと付きっきりで、でも、なんか、やっとちょっとずつ任せて離れられるようになってきたので、思ったよりは早かったかなと。結構、ヘルパーさんたちはみんな、結構、いい方ばかりなんで。

鈴木　あのー、今、先ほど、ちょっと、今、画面が実は、あのー、止まっちゃってる状況なんですけど、ちょっと映られてたのは彼女さんですよね。

芦刈　そうそう。そうです。

鈴木　なんか、なんと、なんかおっしゃってましたか、退院されたとき。

芦刈　いや、もう、一番やっぱりうれしそうでしたね。うん。その、退院のために引っ越しとか、嫌いなこと、手続きとか彼女がほとんどやってくれたので、うん。

鈴木　で、まあ、最初は、でも、まあ、着いてから訪看さんがいらっしゃって、なんか、いろいろ、こう、けん、あのー、けん、あのー、呼吸器の管理とか、そういうことされたってことですよね。

芦刈　そう。あのー、呼吸器メーカー来て、回路の交換とかでしたけど。

Ｂ－　1 人のときは絶対無理やった。

芦刈　うん。（＃＃＃＃@00:18:28）。聞こえますか。

鈴木　大丈夫ですか。

芦刈　ええ。大丈夫ですよ。

鈴木　で、えっと、その訪看さんが来て、あとメーカーさんも来られたってことですかね。

芦刈　そうです。それで、まあ、回路の換え方とかを、(＃＃＃＃@00:18:48)3 事業者入るので。

鈴木　3 事業者？

芦刈　3 事業者入るので。訪問看護。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　あのー、毎日、あのー、入るので、最初なので、うん、それで、うん、一遍に見てもらったほうがいいなと思って。ちょうどいいなと思って。

鈴木　あ、じゃあ、3 事業所の方が来られたってことなんですね。

芦刈　はい。

鈴木　へえ。で、メーカーさん来られて、その呼吸器の、あのー、その操作方法とか、管理方法を教えていただいたってことですか。

芦刈　そうですね。そんな感じです。

鈴木　で、そのとき、かい、えっと、ヘルパーさんもいらっしゃったんですかね。

芦刈　あ、もちろん、あのー、いましたね。でも、替えれるのは、基本、ナースなので。うん。

鈴木　じゃあ、まあ、えっと、一つの事業所のヘルパーさんがいらっしゃったってことですかね。

芦刈　そうですね。

鈴木　はあはあはあ。で、えっと、まあ、その日、えっと、まあ、食事はそういうふうに、まあ、刺し身とか買って食べられたってことなんですかね。

芦刈　そうですね。そんな感じで。

鈴木　特には作らなかったんですね。

芦刈　作ってはないですね、特に。はい。

鈴木　あのー、眠れました？　その日って。

芦刈　いや、興奮して寝れなかった。ずっとしゃべってました。

鈴木　あ、えっと、どなたと？

芦刈　あのー、ヘルパーさんとか、彼女と。はい。

鈴木　え、ずっとって夜中中ってことですか。

芦刈　まあ、寝たの１時間ぐらいですかね。

鈴木　アハハハ。フフフフフフ。じゃあ、ほとんど寝てないっていうことなんですね。

芦刈　そうですね。あのー、あのー、修学旅行みたいな感じですよ。

鈴木　ハハハハハ。

芦刈　興奮して寝れない。

鈴木　フフフ。あのー、まあ、何ていうんですかね。その、今からちょっと振り返って、病院の生活ってどう思います？

芦刈　いや、なんかおかしなことだらけだったなと思います。

鈴木　ああ。

芦刈　うん。そう。まあ、病院で当たり前だったことが、ここでは、なんか違うっていうか、あのー、例えば、毎日着替えて清拭するとか、絶対、病院ではあり得なかったので、きょう

も、ちょっと体拭いてもらって着替えしたんですけど。あとは、やっぱり、ずっと 24 時間いてくれるので、夜寝るときもずっと横にいてくれるので、その安心感がやっぱり違いますね。やっぱり今のが安心な気がします。

鈴木　あのー。

芦刈　夜もよく寝れてます。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　そうです。うん。

鈴木　あのー、前、おっしゃってたの、熟睡したことないっておっしゃってたと思うんですけど、違いますか、やっぱり。

芦刈　全然違いますね。

鈴木　ああ。

芦刈　寝る時間遅いですけど、睡眠時間は、もちろん、多いかもしれないです。

鈴木　多いんですね。

芦刈　大体、いつも 12 時ぐらいに寝るので、まっ 6 時に起きるんですけど、それでも、なんか病院よりは寝れてる感じはあります。

鈴木　へえ。それは、どうしてそうなんですかね。

芦刈　ああ、その、やっぱりナースコールをしても来てくれないっていうのがやっぱりあるんで、やっぱり不安になって、(＃＃＃＃@00:22:51)寝て、目が覚めてちょっと息苦しかったりしてもすぐ呼べるんで、うん、その安心感がちょっと違います。

鈴木　なるほどね。そうなんですね。あのー、今、あのー、画面に映っておられるお部屋は一つ、二つあるんですか。

芦刈　いや、ワンルームです。

鈴木　ワンルーム。これ何階、何階です？

芦刈　2階です。1階が事務所なんで。

鈴木　はあはあはあはあはあはあ。え、このマンション、マンションの名前ってなんですか。

芦刈　なんか別府、別府Ｊって書いてました。

鈴木　あのー、なんか画面からすごい日の光が当たってる様子が見えるんですけど、日当たりはいいんですか。

芦刈　日当たりいいです。暑いぐらいです。

鈴木　それ病室とやっぱり違いますか。

芦刈　そうですね。きょうは、そこベランダに洗濯物干してますけど。

鈴木　あ、ベランダ、ベランダですか。

芦刈　うん。ベランダありますね。ちょっと。うん。

鈴木　へえ。

芦刈　ちっちゃいですけど。

鈴木　はいはいはい。

芦刈　ちょっとしたものは干せるぐらいのところはあるので。

鈴木　へえ。

芦刈　雨のときはぬれるんで干せないですけど、天気がいいときはすごい日当たりがいいので、乾きもいいと思います。

鈴木　やっぱり、そういう部屋の様子なんかって違いますね。やっぱり病室と比べると。

芦刈　そうですね。今、窓際にベッドがあるので、全然、起きたら外が見えるので。

鈴木　はあ。

芦刈　うん。で、まあ、その後ろにベッドがあって、今、僕がこっち向いてるほうにキッチン、入り口にキッチンがあって。

鈴木　なるほど。

芦刈　トイレが(＃＃＃＃@00:24:51)こっち。風呂場が、すぐ横にあります。お風呂、ストレッチャーで入れるようにしてもらってて、シャワー浴で入ってます。

鈴木　あのー、なんか、前、おっしゃってた友人の方がカーテンレールを作ったりとかいうふうにおっしゃってましたけど。

芦刈　ああ、そう。カーテンレールを付けてくれて、棚も作ってくれました。そこにいろいろ荷物を置いてます。

鈴木　いい感じですか。

芦刈　そう。いいですよ。

鈴木　へえ。カーテンっていうのは、もう事前に買って、もう付けておいたんですか。

芦刈　このカーテンは友達にもらったやつ。

鈴木　へえ。

芦刈　うん。

鈴木　じゃあ、もう好きなものを置いたりとかして、もう自分。

芦刈　そうですね。あのー、絵、飾ったり、カレンダー置いたり、いろいろ(＃＃＃＃@00:25:40)。

鈴木　絵を飾ってる？

芦刈　うん。あのー、知り合いの人の絵を飾ってたり、入り口とかに、うん。

鈴木　それ、病室のとき絵は飾ってなかったですよね。

芦刈　ですね。まあ、カレンダーとかぐらいしか置いてなかったです。自分の部屋なんで、自分の好きなようにできるので。結構、壁にちょっと物を付けたりとかもしていいって言われてるので、そこは棚とかもいろいろ付けてもらったりして。

鈴木　広さも違うんですか。

芦刈　ああ、僕の部屋が一番狭いな。ちょっと家賃が違うので。

鈴木　病室と比べるとやっぱり広いですか。でも。

芦刈　ああ、病室。

鈴木　あ、自分のスペースっていうかね。

芦刈　ぐらいかな。

鈴木　あ、広さは。

芦刈　ベッドの周りは広いから、全然広いです。もちろん。

鈴木　はあはあはあはあ。

芦刈　部屋の大きさ的には、うん、あの部屋ぐらいかな。普通にトイレとお風呂が付いてるんで、うん、気分は病室ぐらいで、居住スペースは、まあ、ベッドとこっち側、結構、広いので、ストレッチャー持ってきたりする、かなりこの間は広いので。この間、車いすで、結構、うろうろできる。

鈴木　そのベッドはあれですか。あのー、それは、どう、こう、なんか、今回を機に新しく設置したんですか。

芦刈　自分で購入しました。

鈴木　あ、購入されたんですか、ベッドは。

芦刈　はい。介護保険じゃないので、うん、その、それで自費になるので、うん、日常生活用具の給付で、うん、買いましたけど。

鈴木　え、何の給付で買ったんですか。

芦刈　日常生活用具っていう給付があるんです。

鈴木　総合支援法ですね。

芦刈　そうそうそう。それで補助金もらって、はい。

鈴木　じゃあ、負担額は基本的にゼロでしたか。

芦刈　そうですね。その範囲内で買えるのを選んだので。(＃＃＃＃@00:28:09)。

鈴木　あのー、コンセントの数って、今、何個ぐらいあるんですか。

芦刈　あのー、どれぐらいあるかな。呼吸器用に別に付けてもらったのが。独立したやつを。そういうのが6口ぐらいあるかな。

鈴木　ああ、結構、ありますね。

芦刈　ちょっとWi-Fiとかも付いてるので。

鈴木　はあはあはあはあ。

芦刈　あのー、トイレとか、キッチンとか、冷蔵庫とか、ちょっとくらいありますね。

鈴木　あのー、ネット環境はすぐ整いましたか。

芦刈　あのー、もうWi-Fi入ってて、低料金で使えるので、ここ、あのー、設定見て、あのー、Wi-Fi設定したらすぐできました。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　自分でもびっくりした。こんなに早く(＃＃＃＃@00:29:05)。うん。

鈴木　あのー、病院のときはWi-Fi使えなかったと思うんですけど、今、Wi-Fi使われてどう思われますか。

芦刈　いや、やっぱり便利ですね。いろいろコードつなげなくていい。

鈴木　で、で、あのー、料金はやっぱりあれですか。1カ月幾らとかそういう感じですか。

芦刈　そうですね。なんかすごい安いって言ってましたよ。

鈴木　うーん。

芦刈　うん。まあ、一応、それでケーブルも入ってるので、普通の契約なんか別に見れますね。

鈴木　ケーブルも入ってる？

芦刈　はい。WOWOWとかそれぞれ入るときはこっちで契約ですけど、うん、ケーブルテレビは普通に見れます。普通のチャンネル。

鈴木　へえ、そうですか。じゃあ、病院のときよりも番組数が多い状況なんですね。

芦刈　そうですね。でも、ほとんどテレビ見てないですけど。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　なんか見る余裕がなくて。

鈴木　フフフフフフフ。あのー、犬をさっき飼ってるって、あのー、オシキリさん言ってましたけど、芦刈さんは、なんか生き物飼ったりとかする予定はあるんですか。

芦刈　いや、ないですね。そんな生き物飼う余裕はないです。まあ、あのー、そのうちベラ

ンダに、まあ、プランターを置いて、やってもいいかなとは思ってますけど、まだまだそんなところまではいかないです。

鈴木　あ、でも、プランターを置かれる予定なんですね。

芦刈　まあ、やってみようかなと思って。

鈴木　へえ。

芦刈　植えたり、いろいろ。

鈴木　それは今までやったことないことですもんね。プランターとか。

芦刈　そうですね。うん。あの一、秋田のカトウ君がやってるみたいで。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　そうそう。うん。

鈴木　じゃあ、自分もやってみようかなと思ったってことですね。

芦刈　そう。まあ、もともとやってみようかなと思ってたんで。まあ、いつのことか分からないですけども。

鈴木　はいはいはい。あの一、お風呂って、あの一、以前、なんか、ストレッチャーが入るかどうか心配されたと思うんですけど、もう大丈夫なんですか、それは。

芦刈　大丈夫です。あの一、4 人ぐらい入っても全然大丈夫な感じなので。僕は 1 回、2 回かな。2 回入ったんで、うん、もう訪看さんもコツがつかめたみたいで、お風呂はもう大丈夫そうです。

鈴木　あの一、まあ、お風呂以外のときも清拭があって、もう着替えをされてる状況なんですか。

芦刈　まあ、もうしたいときに。着替えたいなと思ったときにやってます。

鈴木　へえ。例えば、きょうって土曜日で、今、なんかおしゃれなＴシャツ着ら、こら、着れてらっしゃいますけど、あのー、病院だと土曜日ってあれですよね。こんな感じで着てらっしゃらなかったですよね。

芦刈　あ、あのー、病院だと土曜日は、もう人数少ないんで、(＃＃＃＃@00:32:13)なんで、着替えて、なんか。平日でも無理がある。土日は絶対無理ですね。

鈴木　そうですか。

芦刈　うん。

鈴木　でも、考えてみたら、やっぱりこういうふうに着替えを、こう、好きなときにするっていうことはやっぱり良いもんですか。

芦刈　そうですね。やっぱりいくら汗かいても、こんなに服をお風呂日に着替えんといけんけん。で、まあ、体も汗臭いし。

鈴木　うんうんうんうん。なんか、僕がいつもインタビューするとき、なんか、芦刈さん、なんか、いつもジャージーっぽい服装をいつもされてたんですけど、なんか、きょう、初めて、なんか、こういうおしゃれな服を着てるなってなんか。

芦刈　(＃＃＃＃@00:32:55)、あのー、上にかけてたんですよ。

鈴木　ああ。

芦刈　病院はクーラーががんがん効いてて寒くて、季節を感じることもなかったんですけど、きょうは逆に暑くて着てられない。

鈴木　なるほど。

芦刈　この部屋、結構、暑いし。

鈴木　はいはいはいはい。

芦刈　でも、クーラーずっと入れてるので電気代、心配です。

鈴木　はいはい。そうですか。あ、そうか。病院だと逆に寒いんで、確かにそうですよね。夏場なのに、なんかすごい厚着だなと思ってたんですよ、いつも。

芦刈　寒過ぎて、あのー、昔、今はまともな体になってきた。

鈴木　ああ、なるほどね。え、日に当たることってあまりなかったんですか、あの病院にいたときって。

芦刈　ないですね。

鈴木　やっぱり体は違うものですか、やっぱり日に当たってると。

芦刈　そうですね。あんまり日に当たったらいけないので、その、手術とかしてるので。

鈴木　そうですね。

芦刈　そうそうそう。なんか、ちょっと首は気を付けながら。日に当たるのはいいんですけど。あ、でも、あまり外にはまだ出てないので。センターの周りを少し出たぐらいで。

鈴木　センターの周りっていうのは、その、マンションの外行ったってことですか。

芦刈　あ、まあ、あのー、下に自販機とかある、あるので、そこに行ったりとか、事務所に用事で行ったりとか。今、あのー、センターのほうもコロナがはやってるんで、あのー、フェースシールド付けたりとか、感染対策を、結構、やってるので、事務所のほうも、なんか人数で決めてリモートでやってるみたいです。ちょっと落ち着くまでは、しばらくは厳しい感じでやってますね。

鈴木　あのー、台所とかはもう使われたんですか。

芦刈　うん。使ってますよ、毎日。

鈴木　もうお食事は作ってらっしゃるんですか。

芦刈　うん。作ってますね。

鈴木　ヘルパーさんが作られてる？

芦刈　作ってもらうときもあるし、彼女が作ってくれることもある。あります。

鈴木　やっぱりヘルパーさん作られるときって、あのー、いろいろ指示したりとかするんですか。芦刈さんが。

芦刈　そうですね。まだそこまでやってないですけど、料理が得意な人とかには、これとこれで作ってとかっていうのは言ってますけど、まだ、ちょっと自分で本格的には作ってないです。まあ、ベッドからキッチン遠いんで、昼間しか、多分、できないかなと思うんですけど。まあ、もうちょっと慣れてきたら、ぼちぼちやろうかなと。

鈴木　昼間っていうのは、えっと、昼だけってことですか。

芦刈　車いす乗ってるときです。

鈴木　ああ。あ、えっと、で、夜、夜はやらないってことなんですね。

芦刈　まあ、ベッドから指示だすの難しいんで、まあ、やってみようとは思いますけど。

鈴木　じゃあ、朝ご飯と夜ご飯は、なんか買ってきたものとかを食べてらっしゃるってことですか。

芦刈　いや、作ってもらったり、パン焼いたり。炊きたてのご飯食べたりしてます。

鈴木　あ、そうですか。フフフフ。

芦刈　炊きたてのご飯食べれるのうれしいですね。

鈴木　ああ、炊きたてのご飯ね。

芦刈　料理があったかいので、作りたてっていうのは、やっぱりいいですね。

鈴木　あ、病食よりもあったかいですか、やっぱり。

芦刈　あ、もちろん、もう作ってすぐなんで。

鈴木　ああ。え、食事の量とかも、もう自分で決めてらっしゃるってことですかね。

芦刈　そうですね。あまり量は食べれないので。うん。ぼちぼち食べれるのを食べてる感じです。

鈴木　じゃあ、それは、もう自分で、まあ、ある程度、コントロールできるかなっていうふうに思っていらっしゃるってことですね。

芦刈　そうですね。まあ、なるべく野菜食べてますけど。

鈴木　ハハハハ、フフフフ。病院ではあまり野菜って食べれなかったんですね。逆にね。

芦刈　いや、まあ、病院食、食べればあったんですけど、ほとんど食べてなかったので。

鈴木　あ、食べてなかった？

芦刈　あのー、持ち込みのやつばかり食べてた。

鈴木　ああ。え、それはどうしてだったんでしたっけ？　それって。

芦刈　いやいや、病院の食事が、まあ、おいしくないのもあるけど、食べにくいのもあって。

鈴木　ああ、食べにくい？

芦刈　うん。硬かったりとか。肉が、結構、硬かったりするんで。

鈴木　でも、一応、栄養管理士の方いらっしゃるんですよね。

芦刈　ああ、いますけど、やっぱりそんなに材料費が使えないので、肉とかやっぱり、質がいいのが使えないので。

鈴木　はあはあはあはあはあはあ。え、じゃあ、えっと、今、地域に出られて、まあ、それは考えて軟らかい肉を買うことができるってことですかね。

芦刈　そうですね。自分で選んで買えるけん、いいかなと思いますけど。

鈴木　一番、この、えっと、退院した後、作ったやつってなんですか、最初に。

芦刈　どうかなぁ。なんですかね。はっきり覚えてない、覚えてないですけど。

鈴木　なんか研修のときマーボー豆腐作ってらっしゃいましたけど、フフ、今回は。

芦刈　うん。まだちょっと本格的なのは作れてない。

鈴木　ああ、なるほどね。あのー。

芦刈　ちょっとすいません。

（無音）

芦刈　はい。失礼しました。

鈴木　ああ、大丈夫ですか。

芦刈　はい。

鈴木　あのー、先ほどお風呂、月・木っておっしゃってましたけど、あのー、ヘルパーさんが体洗ったりされるんでしたっけ？

芦刈　そうです。ヘルパーと訪看が。訪看さんは、呼吸器のほうに、ちょっと、マスクとか押さえてて、体のほうはヘルパーさんが。

鈴木　1 人ですか、ヘルパーさんは。

芦刈　2 人です。

鈴木　2 人？

芦刈　今はナースがいて、まあ、一応、3 人ぐらいで、最初の、最初の頃は同行とかいろいろついて 3 人より多かったんですけど、多分、これから 3 人ぐらいでやっていくかなっていう感じです。

鈴木　何時から何時までなんですか、お風呂の時間は。

芦刈　一応、9 時ちょっと過ぎから 1 時間ぐらいですかね。うん。

鈴木　それは病院の頃と比べて違うんですか。

芦刈　まあ、ゆっくり入れますよね。上がったりするのも。シャワー浴だけなんで、かけるだけなんで、その、ゆっくり洗ってくれるし。うん。その、病院やったら人数多いんで、せかされるんですよ。うん。

鈴木　フフ。いや、洗い方も違うんですね、やっぱり。

芦刈　全然違います。

鈴木　あ、全然違う？

芦刈　全然違います。

鈴木　へえ。

芦刈　丁寧なのでびっくりしました。

鈴木　アハハハハ。そうなんですか。

芦刈　はい。

鈴木　へえ。あ、でも、お風呂の入る時間帯っていうのは、大体、病院でも 9 時ぐらいからだったんですか。

芦刈　僕は 11 時ぐらいでした。午前中の一番最後の。うん。

鈴木　じゃあ、今は、もう早く 9 時から入ってるってことなんですね。

芦刈　そうですね。その後がいろいろ、まあ、ご飯食ったりいろいろやるので、早く終わらせたいなって。

鈴木　あの一、月・木にした理由っていうのはなんです？

芦刈　いや、まあ、何となく今までやってたので、生活のリズムで、まあ、あまり変えないほうがいいかなと思って。で、一応、まあ、午後から仕事に行くことを考えて、ここでいち早く入る。うん。

鈴木　あの一、お風呂の回数って、あの一、週２回でやる、やる予定なんですかね。

芦刈　そうですね。

鈴木　それは、まあ、増やすっていうのはあまり、かん、あの一、希望してないってことなんですね。

芦刈　うーん。あまりいっぱい入るときついのもあるし、結構ね。うん。人手も要るので。うん。そう。２回で十分なんで。うん。（＃＃＃＃@00:42:29)いないし、今のところ増やす予定はないです。

鈴木　今、芦刈さんが座ってらっしゃるお椅子って車いすですか。

芦刈　そうです。

鈴木　電動ですか。

芦刈　電動です。

鈴木　それは病院のときと同じものなんですか。

芦刈　同じものです。もちろん。

鈴木　はあはあはあ。電動って、芦刈さん、高卒からでしたっけ？　使われてるの。

芦刈　ああ、そうですね。もう何回か変わりましたけど。

鈴木　はあはあはあはあ。あの一、車いすに座るっていうのは毎日されてるんですか。

芦刈　はい。もちろん、やってます。

鈴木　それ、病院のときもそうですか。

芦刈　そうです。

鈴木　何時から何時までですか。今は何時から何時までですか。

芦刈　今は、結構、長いですね。9 時、9 時に訪看さん来て、(＃＃＃＃@00:43:16)って乗るんで、9 時半ぐらいには乗ってて、で、今度、また訪看さんが 17 時に来るので、それに合わせて上がってるので、5 時間、6 時間、ざらに、7 時間半ぐらい乗ってますね。

鈴木　病院のときは何時から何時までだったんですか。

芦刈　11 時に乗って、早いときは 2 時半で、大体は 3 時とか 3 時半に上がってたので、うん。

鈴木　じゃあ、時間が長くなってるんですね、だいぶ。

芦刈　そうですね。

鈴木　それは、お体にとってどうなんですか。

芦刈　ああ、どうなんですかね。

鈴木　つらくはないんですね。

芦刈　だいぶ慣れてきた。お尻はちょっと痛いですけど。

鈴木　ほう。

芦刈　リクライニングできるんで、今もちょっとお尻痛くてリクライニングした。

鈴木　ああ。

芦刈　自分でできないんで、ヘルパーさんにしてもらって。

鈴木　でも、まあ、思った以上に長く座ってられるのかなって思ってるってことですか。

芦刈　そうですね。

鈴木　へえ。

芦刈　毎日の乗るのはリハビリなんで。で、もう、よだきいなった、疲れたなと思って乗らんかったら、1 週間ぐらい乗らなかったらすぐ手が動かなくなったりとか、体が痛くなったりするんで、多少、きつくてもリハビリと思って乗ってるんです。

鈴木　そうですか。

芦刈　通院のときもそんな感じで。

鈴木　はあはあはあはあはあはあ。

芦刈　毎日乗ってくださいってことにはしてたので。

鈴木　へえ。あのー、介助者の方って三つの事業所から入ってらっしゃるんですよね。

芦刈　そうですね。まあ、主に自立支援センター。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　夜勤とか入ってるんですけど、風呂日とか、ちょっと午前中は、他の事業所の人も短時間ですけど入ってます。車いすの移乗とか。うん。時間帯長くして入ってもらってます。

鈴木　全員で何人いるんですか。

芦刈　何人いるかな。夜勤に入るのが 1、2、3、4、5。5 人。5 人ですかね。ちょっと夜勤に入らない人もいるので、はっきり。でも、今、同行でちょっと入ってくれるので、まあ、他の事業所合わせても 10 人ぐらい。10 人ちょっとぐらいですかね。

鈴木　あ、そうですか。あのー、常勤なんですか、皆さん。

芦刈　いや、あのー、夜勤もあるので、僕の所、大体、みんな 2 回ぐらい入って、夜勤と日

勤とか。あ、3 回か。3 回ぐらい入って、あと昼間と。うん。で、夜勤は週 2 回。

鈴木　あのー。

芦刈　1 人だけは週 2 回ですよ。はい。

鈴木　2 人入るときって、お風呂のときと、あと外出するときだけですか。

芦刈　その車いすの移乗のとき。

鈴木　あ、車いすの移乗のとき。

芦刈　と、ベッドに、中、戻るとき。

鈴木　ということは、えっと、もう 9 時前ぐらいからでしたっけ？

芦刈　そうですね。

鈴木　はあはあはあはあ。

芦刈　あ、ちょっと、あのー、毎日、あの、浣腸をして、ベッド上で便器入れるので、それ 8 時から入れる、その時間から来てもらって、訪看さんが 9 時にのって 10 時に終わるみたいな。

鈴木　じゃあ、そのときは 2 人が入ってるってことなんですね。

芦刈　そうですね。夜勤は 19 時から、あのー、8 時まで入ってます。

鈴木　え、夜勤は 2 人なんですか。

芦刈　いや、夜勤は 5 人ぐらいいます。

鈴木　あ、え、あ、あ、えっと、1 回にですよ。1 回の。

芦刈　あ、1 回は、夜勤は 1 人です。

鈴木　1人ですよね。あのー、まあ、なんか最初、あのー、出られる前って、あのー、呼吸器の管理とかうまくいくのかなとか、介助はうまくいくのかなって心配されてたと思うんですけど、やってみてどう、どう、どうでした？

芦刈　いや、もう介助の心配はほとんどないですね。みんなのスキルが高いので。これ、ちょっと大変かなと思ったんですけど、まあ、結構、仲良くやらせてもらってるし。

鈴木　あのー、やっぱりオンラインで介助者の研修をやったってことはよかったかなと思いますか。

芦刈　そうですね。大体のイメージがあるので、多分、すっと入るんじゃないかなと。勉強と違うなってみんな言ってました。

鈴木　フフフフ。そうですよね。フフフフ。でも、まあ。

芦刈　でも、まあ、呼吸器に関しては、まだ、ちょっと、うん、トラブルとか発生してないので、そのときの対処とかまだ心配かと思うんですけど。

鈴木　はいはいはい。

芦刈　で、まあ、しばらくは彼女に、ちょっと一緒に泊まってくれてるんで、なんかあったときは、うん、まあ、いろいろ助けてくれるので。

鈴木　じゃあ、彼女さんは毎日、毎日泊まっていただいてって感じなんですね。

芦刈　そうですね。

鈴木　はあはあはあ。

芦刈　そんな感じで。

鈴木　じゃあ、まあ、しばらく安心するまでそうされるってことですか。

芦刈　そうですね。みんなも慣れてきたっていうかな。ちょっとずつ、でも、離れてみようかなって感じで、下に待機室があるので、待機室から、ちょっと数時間離れてって感じで。

鈴木　はあ。待機室って事務室にあるってことですか。

芦刈　そう。まあ、下の階にあるんで。

鈴木　へえ。あ、そこで、なんか待機できるようになってるんですね。

芦刈　あ、そうですね。ヘルパーさんはそこで待機できます。

鈴木　なるほどね。あのー、なんかマニュアルとかはいろいろ作ってらっしゃったと思うんですけど、それもやっぱり効果があったかなと思いますか。

芦刈　まあ、そうですね。多分、みんな、それ持ってやってて、入ってくれてるので、なかったら全く分からない状態だったっていう。まあ、それは作ってよかったかなと思います。

鈴木　あのー、今、もうほとんど自分で指示しなきゃいけないじゃないですか。掃除とか。掃除もそうですよね。

芦刈　そうです。全部そうです。

鈴木　やってますもんね。それやってみて大変ではないですか。

芦刈　まあ、大変ではないですけど、その、長時間いてくれる人もいるので、あのー、逆に仕事はないとき申し訳ないなって思って。

鈴木　ああ。

芦刈　うん。部屋を一通りやってもらったら。うん。今もこれやってるときは、待機っていうか、そばにはいてくれるんですけど。

鈴木　あ、今も、じゃあ、そばにいてらっしゃるんですね、ヘルパーさん。

芦刈　そうです。

鈴木　はあはあはあ。

芦刈　さっきも車いすのとこリクライニングしたときに倒してもらったんですよ。

鈴木　なんか、基本やっぱりやらないときは待機されてると思うんですけど、なんか、それって、なんか初めての経験だと思うんですが、それはどうです？

芦刈　いや、なんか、申し訳ないなっていうのがやっぱりありますね。

鈴木　フフフ。なるほどね。

芦刈　それも仕事って言われればそうなんですけど。

鈴木　はいはいはい。

芦刈　なので、やっぱりずっと介助してたらやることはあるって言うだろうけど、待ってるのがね。うん。

鈴木　フフフフフフフフフフ。でも、地域の介助者って、皆さんそうやって待ってらっしゃることが多いので、それが、多分、普通だと思うんですけど。

芦刈　そうですね。そうなんですよ。でも、僕はまだ慣れないので。

鈴木　そうですよね。

芦刈　うんうん。

鈴木　なるほどね。あのー、事業所によって考え方とかって違いますか。あのー、介助者に、あのー、どれだけ任せるのかとか、自分が指示しなきゃいけないのかとか。

芦刈　ああ、そんなに、あのー、違いは感じないです。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　うん。他の事業所っていっても 2 人ぐらいしか入ってないので。

鈴木　ああ、そうかそうか。

芦刈　その人、1 人は知ってる人で。

鈴木　うん。

芦刈　うん。あのー、介助したいって入ってくれたので。

鈴木　はいはいはい。

芦刈　うん。もう一人は、なんか夫婦でやられてる小さい事業所みたいな。

鈴木　そうですか。あのー、先ほどお友達が介助者されてるっていうのは、あれ大分のセンターのほうで登録してるんですか。

芦刈　そうです。みんな僕に入ってる人はセンターに登録して。

鈴木　へえ。

芦刈　やってます。

鈴木　あのー、お友達が介助するっていうことについては違和感とかないですか。

芦刈　いや、ないですね。いつも料理作ってくれてるんで。

鈴木　へえ。

芦刈　作り置きしてくれるので。

鈴木　まあ、かえって安心かなっていうことなんですね。

芦刈　そうですね。うん。ええ、そうですね。

鈴木　ああ、そうですか。あのー、さっき、あのー、起きる時間 6 時っておっしゃってましたけど、それは病院と変わらないですよね。

芦刈　そうですね。

鈴木　やっぱりそれはあれですか。病院と変わらない、やっぱり生活のリズムって大事にさ

れてるってことですか。

芦刈　いや、あのー、間に合わないんですよ。

鈴木　ああ。

芦刈　うん。

鈴木　なるほどね。

芦刈　うん。そうなんです。

鈴木　でも、その一方で、あれですよね。夜寝る時間って、あれ夜遅く寝てらっしゃってますよね。12 時でしたっけ？

芦刈　そうですね。

鈴木　毎日ですか。

芦刈　毎日それぐらいになりますね。

鈴木　フフフ。それ病院のときってもっと早かったですよね、確か。

芦刈　消灯 9 時です。

鈴木　ですもんね。3 時間遅いってことですよね。

芦刈　で、もう 8 時に電気消えてたので。

鈴木　フフフ、フフフフ。それは、なんかあれですか。あのー、あのー、そういうふうにしたいと思って遅くされてるってことなんですよね。

芦刈　うーん。いや、その、7 時、ちょっと夜勤の人と入れ替わるときに、そこから料理作ることもあったりして、結局、食べ始めるのが遅いんで、8 時とかになるので。

鈴木　へえ。え、それは、あのー、自分の思ったとおりな感じでやってるんですか。その 8

時にご飯食べるとかって。

芦刈　ああ、それぐらいになるだろうなと思ってました。

鈴木　へえ。じゃあ、なんか、もう自分の好きなように、好きな時間に食べて、寝てって感じができてるかなって思う、思うってことですか。

芦刈　そうですね。うん。それは、もう自由にできてます。

鈴木　なるほどね。あのー、主治医の方とお会いしましたか、退院されてから。

芦刈　いや、会ってないです。今度3日に(＃＃＃＃@00:55:09)受診があるので、そのときに。

鈴木　1カ月に1回ですよね。

芦刈　そう。1カ月に1回です。

鈴木　はあはあはあ。

芦刈　第1金曜日に行く予定です。

鈴木　うん。あのー、なんか、あれですか。夜間とか、もしなんかあった場合って、なんか、どこに連絡するんですか。

芦刈　訪問看護ですね。

鈴木　ああ。

芦刈　その日の担当の訪問看護。

鈴木　なるほど。

芦刈　夜中の12時に入れ替わるので。

鈴木　なるほど。

芦刈　緊急連絡先がそこのボードに全部貼ってて、すぐ連絡できるように。

鈴木　へえ。それはどう思います？　病院の頃と比べてかなり違うと思うんですけど。

芦刈　ああ、そうですね。これはちょっと、この前、体調悪いときに、ちょっと呼ぶかどうかちゅうちょしたんですけど、ちょっと、なんか違うなって思ったことでも呼んでくださいって言われてたので、うん、ひどくなる前に。うん。だから、今度、ちょっと悪いなと思った中でも連絡して、ちょっと指示をあおごうかなと思います。

鈴木　で、それ。

芦刈　そういう、そういう体制を、なんか毎日そろえてくれてるので、まあ、そこは安心かなと。

鈴木　そのときすぐ来られましたか、訪問看護の人は。

芦刈　いや、呼んでないです。なんか、また病院送りになるんじゃねえかと思って、ちょっとちゅうちょしてしまって。うん。

鈴木　あ、それは呼んでないんですね。

芦刈　で、朝、もう来て、うん、いつもの来る時間ぐらいになりました。

鈴木　じゃあ、そのときに尋ねたってことなんですね。

芦刈　そうですね。

鈴木　ああ。結局、何もなかったんですか。そのガスがたまってっていうことで。

芦刈　うん、まあ、それでおなかが張るので、ちょっと息苦しかったっていう。

鈴木　ああ。でも、まあ、今後何か、こう心配なことがあったときは、一応、まあ、訪問看護の人は24時間対応してくれるだろうなっていう、そういう安心感が。

芦刈　24時間対応。はい。

鈴木　ああ。なんか、よく、あのー、退院される方の心配って、なんか、やっぱり病院と比べて地域ってやっぱり安全じゃないとか、やっぱり心配だったっていうこと言われるんですけど、その辺りはどう思います？

芦刈　まあ、確かに、その病院は体調悪かったら、すぐに点滴したり、ドクターに診てもらったりはできるんで、うん、安心だとは思うんですけど、自分から病院に戻りたくないし、なんか、その、まあ、その、思ったよりも、そんなに不安ないし、うん、まあ、その、ちゃんと体制つくられてれば、まあ、よほどのことがない限りは、まあ、何とか大丈夫かなと思います。

鈴木　なるほどね。

芦刈　うん。そんな事態になってないので分からないですけど。

鈴木　ああ。そうですもんね。まだ、これから分からないですもんね。

芦刈　思ったよりは、できているかなって。

鈴木　うん。

芦刈　訪看さんもだいぶ慣れてきてくれて。

鈴木　なるほどなるほど。

芦刈　うん。そうですね。安心感はあります。

鈴木　リハビリとかってされてるんですか、芦刈さんは。

芦刈　いや、西別府行ったときにしよう、月１回しようと思ってるんですけど、月１回しかないので。

鈴木　あ、それは、でも利用できるんですね、西別府で。

芦刈　ああ、できますね。

鈴木　あのー、それはあれですか。訪問リハビリじゃなくて、その、なんか通所のリハビリになるんですかね。

芦刈　病院行って、病院のリハ室で(＃＃＃＃@00:59:03)受けるって感じです。

鈴木　今まで比較的ね、あのー、結構、PT とか、OT とか、2 単位とかね。結構、長くやられ、やられましたけど、やっぱり少なくなるんですかね、これからは。

芦刈　まあ、月 1 回なんで。

鈴木　うん。40 分ぐらい？

芦刈　そうですね。多分、それぐらいで。

鈴木　うん。え、今度行くときっていつなんですか、リハビリは。

芦刈　今度 3 日です。

鈴木　あ、病院に、主治医さんにお会いするときにリハビリを受けるんですね。

芦刈　ただ、今、コロナが多いので、今回は受診だけしてすぐ帰ってきます。

鈴木　ああ、なるほど。

芦刈　ぎりぎりで終わったらすぐ帰ります。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　今、もう、あのー、センター出て、感染対策やってるんで。

鈴木　うん。なるほどね。

芦刈　僕がそこで、コロナやってる間入るので、なので、そうやって守ってくれてるので、自分も、うん、ちょっと自分の身は守らないといけないので。

鈴木　芦刈さん、コロナのワクチンってこれから受けるんですもんね。

芦刈　あ、9 月に受けます。

鈴木　あ、9 月に 1 回目？

芦刈　手術で受けるので 3 回行かなくちゃいけないんです。

鈴木　3 回？

芦刈　受診と、1 回受診に行って、7 日と 28 はワクチンを受ける。この時期はあまり行きたくないですけど、しょうがない。

鈴木　そうですよね。

芦刈　ワクチン打たないと。

鈴木　ああ。確かにね。

芦刈　うん。

鈴木　で、あのー、センターのお仕事ってまだ始めてらっしゃらないですよね。

芦刈　まだ。まだですね。

鈴木　いつから始められる予定なんですか。

芦刈　いや、まあ、いつでもできるときでいいよって言われてるので、やっぱりちょっと慣れるまで無理ですね。

鈴木　はあはあはあ。じゃあ、今は、まあ、どう、あのー、今の過ごし方としては家に、家で過ごされてることが多いですかね。

芦刈　あまり事務所にも行かれないので。

鈴木　はいはいはい。

芦刈　部屋の中で引きこもってます。

鈴木　ああ。買い物も散歩も行けてないですもんね。

芦刈　そうですね。なるべく出ない。

鈴木　ああ、そうですね。今はね。

芦刈　でも、病院に監禁されるより、ここで閉じ込められるほうがいいです。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　断然、こっちのほうがいいです。

鈴木　ハハハ。フフフフ。それは、やっぱり、え、どういう部分で違いますか。

芦刈　いや、まあ、自由もあるし。うん、病院だといろいろな制限があって、うん、清拭すらできないので。

鈴木　なるほど。

芦刈　もう、ここで、風呂も、風呂も入れるし、全然ここだけで生活できるので。

鈴木　ああ、なるほど。

芦刈　で、まあ、自由な時間にご飯食べて、寝てってできるので、もう、なんか、束縛されてる感はないです。

鈴木　へえ。

芦刈　まあ、その洗う時間とか時間は決まってますけど、でも、それはそれで、やっぱり自由があるので。

鈴木　なるほど。間食とかも全然自由ですか。

芦刈　そうですね。まあ、ほとんどしてないですけど。

鈴木　あ、ほとんどしてない。フフフフ。あのー、通帳は、なんか、前、つくられるっておっしゃってましたけど、それは、もう信用金庫と、大分の銀行、両方もうつくったんですかね。

芦刈　ああ、信用金庫はつくりました。うん。はい。

鈴木　それは、やっぱりあれですか。年金を自分で管理するっていうのは、だいぶ、なんか、感覚的に気持ち的に違いますか。

芦刈　それは全然違いますね。

鈴木　うん。

芦刈　全部おやじに任せてたので。

鈴木　うん。

芦刈　うん。

鈴木　でも、ある程度、計画を立てていかなきゃいけないですよね。

芦刈　そうですね。家賃もあるし、電気代も、多分、かなりかかるだろうから。まあ、何とか毎月払えるように頑張らんと。

鈴木　フフフフフフフフフフフ。でも、彼女さんと一緒にそうやって考えることができるだけなん、あ、そういうことがあるので、まあ、1 人じゃないっていう安心感があるってことですかね。

芦刈　そうですね。はい。

鈴木　あのー、自治会とかって入ってらっしゃらないですよね、皆さん。

芦刈　ああ。その話聞いてないな、そういえば。

鈴木　ああ。回覧版とか、じゃあ、回ってこないんですね。

芦刈　ですね。

鈴木　はあはあ。周りの人ってあれですか。健常者の方もいらっしゃるんですよね。

芦刈　いや、マンションの中にはいません。みんな、脊損の人とか頚損の人とか。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　呼吸器で筋ジスの人は僕だけ。

鈴木　へえ。

芦刈　初めてセンターに入ったので。

鈴木　へえ。なんか、あのー、オシキリさん言っていたんですけど、なんか、西別府でも、あのー、気切。あのー、気管切開の人で出たいって思ってらっしゃる人がいるって話聞いたんですけど、芦刈さん・・・。

芦刈　ああ、ですね。うん。

鈴木　その人ご存じですか、芦刈さん。

芦刈　はい。もちろん、うん、いろいろお世話になったりとかなんで。うん。病棟違うんですよ。2 階なんで。

鈴木　2 階の方ですか。

芦刈　ずっと出たいって言ってる。なかなか、まあ、結構、高齢なんで、80 過ぎてるのかな。

鈴木　そうですね。なんかおっしゃってましたね。

芦刈　あのー、障害者活動とかやってて、デモとかでいつも先頭に立ってた人なんで。

鈴木　え？　何です？

芦刈　あの一、障害者活動で。

鈴木　先頭に。

芦刈　デモとか。

鈴木　はあはあはあ。

芦刈　デモとかで先頭に立って、なんか指示するような人だったんで。

鈴木　へえ。そうですか。じゃあ、まあ、将来的にあれですか。そういった方の支援っていうのもされる予定なんですか、芦刈さんは。

芦刈　うん。その人も、なんか来年の秋に出たいって言ってるんで、オシキリ君に、支援するよって、一緒にやろうって言われてるんで。

鈴木　へえ。それは。

芦刈　なかなか、なかなか、ちょっと厳しいですけど。

鈴木　はあはあはあはあ。

芦刈　一人ものなので、親とかも、もちろん、いないので。80 なので。うん。あの一、気管切開して、いろいろ、出るの相当、大変やって。

鈴木　あ、そうなんですか。

芦刈　そうなったら大変だと思います。

鈴木　それ病院側が OK 出さないってことですか。

芦刈　そう。もうずっと僕より先に言ってるぐらいなんですけど。

鈴木　へえ。

芦刈　まあ、ほとんど、出ないっていうか。まあ、コロナがあるのも影響してるんですけど。うちは、あのー、彼女がいてくれるんで、病院からの信頼もすごい厚いので、それで、まあ、OK 出たのもある。

鈴木　なるほどね。でも、なんか今まで、こう支援を受けてた芦刈さんが、今度、支援をする立場になるっていうか、そういうことについてどう思います？

芦刈　いや、まあ、まだまだ全然、知識もないので、あのー、全く役に立たないと思いますけど。僕は自分の今の経験を、まあ、生かせれたらいいかなと思って、まあ、その人、ずっと、もう家にいた人なんで、(＃＃＃＃@01:06:39)僕も教えることとかはないですけど、なんとか、出れるようにサポートできたらなと。だから、まあ、僕はこれから、呼吸器付けてるので、そういう人たちが暮らしやすい環境づくりにするのも自分の仕事かなと思ってるんで。

鈴木　あのー、オシキリさんって、結構、あれですか。今、芦刈さんの、あのー、お部屋って、結構、訪問されるんですよね。

芦刈　毎朝(＃＃＃＃@01:07:12)来ます。毎朝来る。

鈴木　毎朝来るんですか。

芦刈　うん。

鈴木　フフフフフフフ。それは、なんか、まあ、あのー、様子を見に来るって感じですかね。

芦刈　そうですね。(＃＃＃＃@01:07:24)とか、ちょっとなんかいろいろ用事があるときに。うん。昨日、あのー、訪問看護との振り返りがあって、まあ、事務所に下りて、うん、話はしたんですけど。

鈴木　へえ。あ、もう話し合いもされたんですか。

芦刈　その、まあ、1 回目の。

鈴木　支援会議ですよね。

芦刈　まあ、支援会議みたいな。

鈴木　え、ヘルパーさんもいらっしゃったんですか、そこに。

芦刈　あ、まあ、その、センターのヘルパーの代表みたいなトップの人が出て、そのオシキリ、オシキリ君と。

鈴木　はいはいはい。

芦刈　訪問看護がそれぞれ 3 人、事業所から 3 人、うん、1 人ずつ出てくれて。うん。特に、こう、問題もなく、今のところ順調にきてるんで、和やかな感じで終わりましたよ。

鈴木　やっぱりあれですか。オシキリさんがずっと、こう出た後にもサポートしてくれるっていうのは安心感がありますか。

芦刈　ああ、もちろん。隣におるっていうのがすごい安心ですね。なんかあったら連絡してって言われてるので。

鈴木　それも珍しいことですよね。

芦刈　うん。

鈴木　え、なんかあったときに連絡したことありますか。

芦刈　いや、まだないですね。あ、でも、ちょこちょこ用事があったら、そこ電話して、この部屋も 1 回訪ねましたけど。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　うん。

鈴木　なるほどね。あのー、災害の訓練とかとかって、そういう話はしてますか。

芦刈　ああ、してないですね。そこはね。

鈴木　その辺の心配とかないですか。災害っていうのは。

芦刈　うん。一応、非常用のバッテリー、センターが購入してくれて、うん、それで13時間ぐらいもつんで、それも、なんか、3台ぐらい、2台ぐらい買ってくれたみたいで、センターを挙げてちょっと応援してもらってる感じで。まあ、他の、まあ、防災グッズみたいなのはそろえてないので、ぼちぼち余裕ができたらそろえていこうかなと。

鈴木　ああ。避難訓練とかっていうのは、まあ、これからなんですかね。やっぱりコロナでできないかと思いますけど。

芦刈　ああ、今、コロナなんで、多分、できないと思います。

鈴木　あと、芦刈さん、ずっと詩をやってらっしゃったと思うんですけど、今でもやってらっしゃるんですか。

芦刈　ああ、もう書く余裕ないですね。

鈴木　ああ、今はないんですね。また作る予定ですか。

芦刈　そうですね。ちょっと9月ぐらい、10月ぐらいに作品展なんか県立美術館で、なんか障害者の詩、書く人が集まって、なんかやるのがあるので、それにちょっと名前が入ってる。

鈴木　へえ。

芦刈　準備はしなくちゃいけないなと。

鈴木　すごいですね。そうですか。ああ。なんかお忙しいと思いますけど、あのー、頑張ってください、本当に。

芦刈　はい。まだ、あのー、全然、余裕がなくて。

鈴木　ですよね。

芦刈　メールとかも返事、全然できてなくて。

鈴木　ああ。今度・・・。

芦刈　Facebook の書き込みもちょっと、今、まだできてない。

鈴木　ああ。今度、あれですよね。5 日の日に、あのー、セミナーやられますよね。あのー、本当に皆さん楽しみにしてると思いますので。へへへ。

芦刈　はい。本当は、もう、オシキリ君が主催してるやつで、昨日、（＃＃＃＃@01:10:58）分ぐらいしゃべる予定だったんですけど、一昨日は体調悪くて、昨日だったので、もう延期してもらって、9 月にまたあると思うので。はい。

鈴木　本当に、あのー、体調には気を付けて、あのー、ハハハ、楽しんでいただければと思います。ありがとうございます。

芦刈　はい。ありがとうございます。

鈴木　あのー、えっと、また、ちょっと、時間が、ちょっとたってから、またお尋ねするかもしれませんけど、その際には、ちょっと、またよろしくお願いします。

芦刈　分かりました。

鈴木　あと、あのー、これまでの文字起こし、あのー、メールで送らせてもらってますので。

芦刈　うん。後でやります。はい。はい。

鈴木　はい。何かありましたらご連絡いただければと思います。すいません。お世話になりましたけどありがとうございます。

芦刈　いや、ありがとうございました。こちらこそ。

鈴木　引き続き楽しんでください。ありがとうございます。失礼いたします。

芦刈　はい。ありがとうございます。

鈴木　はい。失礼します。

芦刈　はい。はい。

（了）